

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2018年
Vol.32

ほっとタイムズ

病院長メッセージ「国民皆保険制度を続けるために。」

教えてドクターQ&A あなたは大丈夫!?
本当はこわい脂肪肝



糖尿病週間イベント

特集『医療をささえるスタッフ 看護局』…2～3

ドクター紹介……………5

小児科 部長 稲川 直浩
小児科 部長 齋藤 誠

各科各部紹介 ……………5

第18回 ドクターズ・クラーク

トピックス ……………6

がん患者サロンのご案内

トピックス ……………7

総合学習

「いのちの始まりから今の僕たち・私たち、そして未来へ」
かさま市民運動会に参加しました
平成30年度 慰霊式

連携医療機関のご紹介 ……………8～9

下田整形外科 つなかわ歯科医院
友部歯科診療所

地域連携だより 各診療科のご紹介 ……………10

形成外科

医療を
ささえる
スタッフ

看護局



看護局 局長
かく た なお え
角田 直枝

看護局は主として看護師が所属する部門です。茨城県立中央病院では、約570人の看護師に加え、看護補助者約70名、さらに社会福祉士や視能訓練士など、看護師以外の職種も合わせた、病院職員のなかで7割ほどを占める大きな集団です。

私たちは患者さんの生活の最も近い立場で働きますので、病棟・外来・検査室・手術室と、患者さんがいらっしゃる場所には必ず看護局の職員が配置されています。そして、看護局の職員は、患者さんの診断や治療が安全に進むようお手伝いをするとともに、食べる、眠る、排泄するといった日常生活のお世話をいたします。さらに、外来通院の間のご自宅での生活や、退院後の療養のご相談までを考え、患者さんやご家族が安心して暮らせるようお手伝いしたいと考えています。心配なことや気になることがございましたら、どうぞお近くの看護師にお声かけくださいますようお願いいたします。

認定看護師の紹介

医療現場の高度化や専門分化にともない、水準の高い看護の実践が求められてきています。現在、当院の看護局には専門分野に熟練した17分野32人の認定看護師^(※)がおり、これは茨城県内の病院で最も多くなっています。



感染管理認定看護師
みやかわ なお み
宮川 尚美

感染管理認定看護師11年目で感染制御室専従です。患者さんと職員の他、病院に訪れる全ての方が感染から守られるよう、感染対策チームの一員として、教育・指導や現場確認、医療関連感染の発生の監視、病院環境改善のファシリテーターなどを行っています。また、院内外問わず感染対策に関する相談に応じています。相談者の話をよく聞いて問題の本質を見極め、患者さんと医療従事者にとって最善の対策が講じられるよう、日々努めています。



摂食・嚥下障害認定看護師
きくち ゆ き こ
菊池由起子

摂食嚥下障害は、食べたいと思ったものを口まで運び、よく嚥んで飲み込み、食道を通り胃に入るまでの、どこかの過程に問題が生じることで起こります。潤ったきれいな口口を整えることも、味を楽しみながら食べるためには大切です。どこに問題があるのか、どこを工夫するとよいのかを考え、患者様のご家族様と一緒に安心して美味しく食べられるようお手伝いをさせていただきます。

(※) 認定看護師とは看護師として実務経験が5年あり、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を受講後、認定看護師認定審査に合格することで取得できる。現在特定されている分野は21分野ある。

看護局では当院の理念でもある患者さまに優しく、質の高い信頼される医療の提供を目指し、日々奮闘しています。専門性を生かし、幅広く活躍する当院看護師の数ある業務の中からいくつかの仕事を紹介します。



日常業務

医師と協働して治療のサポートやケアを行います。また、患者さまだけでなく、そのご家族の支援も行っています。外来、病棟、救急や透析、外来化学療法等、たくさんの場で活躍しています。



県政出前講座

学校、職場や集会、介護施設などへ講演や実技指導にお伺いし、健康や医療、介護に関する日頃の疑問にお答えする、出前講座を行っています。



教育支援

看護教育支援室では【キャリア開発支援】【地域の看護教育支援】【人材確保・看護のPR】などを行っています。夏休みには高校生が好きなユニフォームを着て、救急室・手術室で看護体験を行い、助産師による「命の誕生」の講義を行いました。



救急

ドクターカーはもとよりドクターヘリの要請もある当院では県内だけではなく隣県からの救急搬送者も受け入れてます。24時間体制で救急搬送と時間外受診に対し、安全で有効で満足の得られる医療が受けられることを目指しています。

地域連携



笠間市立病院
かいとう さよこ
海藤佐代子

2017年4月から人事交流により、笠間市立病院で看護局長（兼）訪問看護ステーションかさまの管理者として働いています。笠間市立病院は、外来、30床の入院病棟、訪問診療、訪問リハビリ、訪問看護ステーションかさま、ケアプランセンターかさまが在宅療養を支援しています。2018年4月に「地域医療センターかさま」へ移転し、医療・保健・福祉の連携強化をしています。

毎週木曜日には、県立中央病院を訪問し、急性期治療を受けた患者様が笠間市立病院に転院し、住み慣れた自宅等に戻る準備ができるよう連携しています。訪問看護は、患者様が穏やかに療養できるように、また、人生の最期を自宅で迎えるための支援を行っています。

今後も、患者様やご家族が不安を軽減して在宅療養ができるよう努めていきます。

あなたは大丈夫！？ 本当はこわい脂肪肝

教えてドクター

Q&A



Q：脂肪肝について教えてください。

A：肝臓の細胞(肝細胞)に中性脂肪がたまった状態をいいます。
超音波検査で、脂肪が光って肝臓が白く見えることが一番簡単な診断法です。

Q：原因を教えてください。

A：これまではお酒の飲み過ぎ(アルコール性)と言われていましたが、最近アルコールをたくさん飲まなくとも(非アルコール性)肥満だけで脂肪肝になる方が目立ってきました。メタボ(メタボリックシンドローム)の一環と考えられています。



Q：脂肪肝と診断されましたが、ほっとおいていいのでしょうか。

A：これまではアルコール性以外はほっとおいてもよいと考えられていましたが、非アルコール性でも脂肪肝が悪化して肝硬変になり、肝臓がんができる方もいることがわかってきました。しかも誰が肝硬変・肝臓がんになるのか簡単に予想する方法が今のところ見つかっておりません。

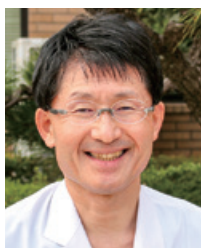
Q：では、どのようにすればよいのでしょうか。

A：非アルコール性で肝硬変・肝臓がんになる率はわずかなので、心配しすぎることはないのですが、予想できないので、ドックや健診を受けて肝硬変に近づいていないか確認することが大切です。それより脂肪肝を直したほうが話は簡単です。



Q：治療法はありますか。

A：一に減量、二に減量です。今後新薬が出るかもしれませんが、今のところ必ず治る薬物治療はありません。糖尿病・脂質異常症・高血圧などとセットになっている方が多いため、それらを重視しながらいっしょに治療されることも多いです。また節酒・禁酒してください。



荒木先生から
ひとこと

消化器内科 部長
あら き まさひろ
荒木 真裕 先生

ところでC型肝炎をまだほっとしている方はいませんか？以前はインターフェロンしか方法がなく、副作用が問題でした。ところが数年前から副作用の少ない飲み薬だけでC型肝炎ウイルスを排除できるようになり、当院でも250人以上の方が治療を受けられています。条件がいくつもありますので、かかりつけの先生を通してご相談ください。

ドクター紹介



小児科
部長
いな かわ なお ひろ
稲川 直浩

水戸生まれの水戸育ちです。高校時代は北国に憧れ北海道大学受験を決意、大学を決めたその後に医学部受験を決めました。1年浪人の後、色々あって千葉大学の医学部に進学。北国への憧れはその後も続き、いつしか南極越冬隊に医師として潜り込むことを真剣に考え、臨床家として少しでも早く独り立ちしようと卒業後は千葉県の旭中央病院で初期研修を開始したのですが、3年目には何故か小児科医になっていました。結局南極には行けずじまい、北海道にも受験の時以外は行けていません。そして茨城には新型インフルエンザ流行の年の2009年に、これも不思議な縁あって帰って参りました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



小児科
部長
さいとう まこと
齋藤 誠

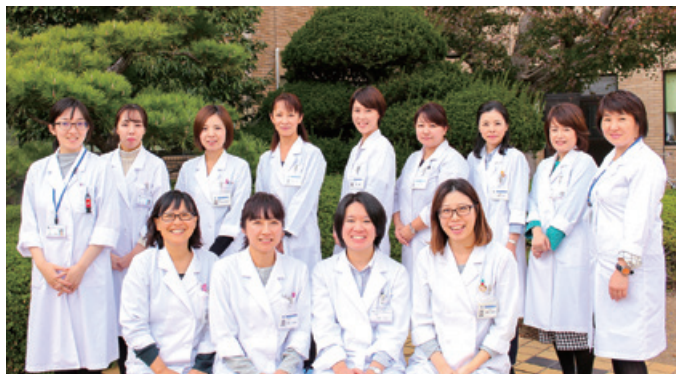
2015年に県立中央病院で分娩再開に伴い筑波大学から赴任いたしました。専門分野は新生児ですが、小児科の一般診療も行っております。筑波大学では新生児集中治療室(NICU)に勤務しておりました。当院にはNICUはありませんが、公立の総合病院ということで、肉体的・精神的・社会的に問題のあるお母さんは多く、特に精神疾患は、県央・県北地区で唯一の常勤の精神科医が勤務している分娩施設ということでそのほとんどが当院で分娩しております。その様な母子に生まれた直後だけでなくその後の発育や子育ての状況も定期的にフォローさせていただいております。

各科各部紹介 第18回 ドクターズ・クラーク

医師の負担軽減および病院全体の業務最適化を図る目的でドクターズ・クラーク（医師事務作業補助者）を配置しております。

医師の指示のもと、文書作成の補助、外来診療の補助、医療の質の向上に資する事務作業などを行うことにより、医師の診療時間を確保し、医療の質の向上、患者満足度アップなどに貢献できるよう関わっています。

専門知識やOAスキルなどはもちろん大切ですが、それ以上にコミュニケーション能力や対応力がとても重要になります。医師やその他の職員と接する機会が非常に多く、“チーム医療の潤滑油”として質の高い医療サービスの提供を支える役割を担っています。



～がん患者サロンのご案内～

がん患者さんやそのご家族など、同じ立場の人たちが気軽に集まり、情報交換や交流を図るためのサロンです。自由な交流に加え、がんのことに関する勉強会なども行っています。悩みや不安を分かち合うことで、気持ちが楽になったり、励みになったりするかもしれません。同じ経験をもった仲間がお待ちしております。

がん患者レディースサロン「のぼら」が発足しました！

がん患者レディースサロン「のぼら」の発足を記念し、10月17日(水)に当院にて発足会を開きました。当院の副病院長兼がんセンター長の吉見医師の挨拶、サロンの説明に続き、乳がん看護認定看護師の園原看護師による「最近のがん事情・女性のがんの話題」のテーマで勉強会を行いました。

がん患者レディースサロン「のぼら」

病気や治療のこと、生活のこと、また女性限定のサロンですので、女性ならではの悩みごとなど、同じ体験者同士で語り合ってみませんか。お気軽にご参加ください。

■参加者：女性限定。がん体験者、ご家族、支援者の方々など、どなたでも参加できます。
がんの種類は問いません。※参加費は無料です

■日時：毎月第3水曜日 13時30分～15時30分

■場所：茨城県立中央病院内 研修棟1階 会議室E

■今後の予定：12月19日(水) クリスマス会

1月16日(水)「リンパ浮腫の話」

2月20日(水)「家事の工夫/便利商品の紹介」

3月20日(水)「ウイッグの話」 ※変更の場合もございます。



がん患者サロン「やまびこ」

毎月勉強会などを行っています。男女問わずお集まりいただいております。ぜひお気軽にご参加ください。

■参加者：どなたでも参加できます。がん体験者、ご家族、支援者の方々など。
がんの種類は問いません。※参加費は無料です

■日時：毎月第1月曜日 13時00分～15時00分

■場所：茨城県立中央病院内 研修棟1階 会議室B

■今後の予定：12月3日(月)「がんの治療と予防」

1月7日(月)「これからのがん医療/オプジーボの先の夢を語る」

2月4日(月)「がんのリハビリテーション/自分らしく生活するお手伝い」

3月4日(月)「肝臓のお話」 ※変更の場合もございます。

お申込み

がん患者サロン「友部やまびこの会」とがん患者レディースサロン「のぼら」は、ともにご予約は不要です。直接会場へお越しください。

お問合せ

がん相談支援センター

TEL. 0296-78-5420

FAX. 0296-78-5421

総合学習

「いのちの始まりから今の僕たち・私たち、そして未来へ」



9月28日(金)、10月26日(金)の二日間にわたり、友部小学校の5年生を対象に当院にて総合学習が行われました。

「いのちを守る大切なしくみ」について小児科の稲川先生による講話や体験学習を通して楽しく学びました。また「高齢者を理解する」というテーマでは太田看護師長と一緒に高齢者が感じる世界について学習しました。この学習を通し、子供たちがいのちについて考えるきっかけになればうれしく思います。当院では今後もこのようないのちや医療への関心を高める医療教育活動を行ってまいります。

かさま市民運動会に参加しました

10月13日(土)「かさま市民運動会」に“県中QQセンター”チームとして当院の職員が参加しました。参加種目は「グループ対抗リレー」。なんと予選を勝ち抜き、念願の決勝進出を果たしました！初めての決勝進出に皆な大喜び。決勝では永井名誉院長の応援のもとゴール直前に2人を抜いて4位に！いつもは職場で発揮している連携プレーが存分に生かされた運動会になりました。



平成30年度 慰霊式を執り行いました

10月25日(土)に平成28年4月～平成30年3月までの間に当院で亡くなられ、医学教育・研究のために病理解剖にご協力いただいた御霊を慰め鎮めるため、慰霊式を執り行いました。当日はご遺族をはじめ病院関係者が参加し、御慰霊氏名奉読、黙とうに続き、当院病院長による「慰霊の辞」五十嵐茨城県病院事業管理者あいさつ、医師代表玉木放射線治療センター長とご遺族代表による「追慕の辞」がそれぞれ述べられました。最後に参加者全員で献花をお供えし、哀悼の意を表しました。



かかりつけ医を
持ちましょう

連携医療機関のご紹介

* かかりつけ医を持ちましょう *

当院は高度医療の提供・急性期疾患への迅速な対応をする急性期病院の役割を担っています。急性期病院としての病院外来診療の役割は急性期の患者さまを診察することであり、症状が落ち着いたら地域の医院・クリニック等で継続治療していただくのが望ましいとしております。当院の医療を必要とする一人でも多くの急性期の患者さまのために、当院で治療を終えられた慢性期の患者さまには、安心して地域の診療所（医院・クリニック等）で診ていただけるよう、当院では医師会の指導のもと、診療所と連絡を取り合い連携を強化しております。

【かかりつけ医の役割】

かかりつけ医は、まず、患者さまの初期医療に当たります。病状によって高度な診療・検査等が必要と判断した場合には紹介状（診療情報提供書）を作成し、適切な医療機関での診療を案内します。

かかりつけ医

通常の診療



県立中央病院

入院・高度医療機器による検査・専門医診療



紹介

逆紹介

下田整形外科

院長 下田 雅樹

当院は平成9年4月に開院いたしました。

整形外科、リハビリテーション科、内科、皮膚科の診療を行っております。腰痛、各関節痛やケガ（捻挫、骨折、切り傷、交通事故など）の治療、巻き爪・ばね指・アテローム（粉瘤）等の日帰り手術、骨粗鬆症・閉塞性動脈硬化症の検査などに対応しております。

その他、インフルエンザ・肺炎球菌・各種予防接種や健康診断にて、地域の皆様の健康に役立てるよう努力しております。

より専門性の高い診療や検査が必要な場合は、茨城県立中央病院と連携して治療にあたります。

明るいスタッフが対応致します。どうぞお気軽にご相談ください。



■所在地：笠間市笠間4390-3

■電話：0296-73-0858

■診療受付時間：午前 9:00～12:00

午後14:00～18:30

■休診日：木曜・日曜・祝日・土曜午後

ここでは患者さまやご家族の日常的な治療や健康管理を考えてくれる、地域の身近で気軽に相談できるかかりつけ医である医療機関をご紹介します。

つなかわ歯科医院

院長 綱川 健一

当医院は昭和59年開院以来歯周治療を基にした治療と、治療後の口腔の健康の維持管理を中心とした歯科診療を続けてきました。

現在は歯科医師2名（歯周病専門医1名）と歯科衛生士3名、歯科助手1名、受付1名の体制で、在宅往診、施設往診を含む口腔の健康管理を行ない、「最後まで口から食べる」ことを目標とした診療を心がけております。

県立中央病院とは地域医療連携室を通じての周術期の口腔管理、在宅往診での医科歯科連携を行っております。



■所在地：笠間市笠間1958

■電話：0296-72-7127

■診療受付時間：午前 9:00～13:00

午後14:00～18:00

■休診日：水曜・日曜 祝祭日

友部歯科診療所

院長 伊藤 幸夫

当院は開業して34年を迎えた、茨城県笠間市の歯科診療所です。一般歯科をはじめ大学病院で研鑽を積んだ矯正科、麻酔科、インプラント科、口腔外科医など各科専門医を招き、大学病院レベルの総合歯科診療を行っております。平成30年9月からは小児歯科専門の時間帯を設け歯科治療の訓練から予防治療を積極的に行っております。

また歯科麻酔専門医によるリラックス外来や痛み外来なども行っているため今まで歯科治療が怖くて通院を避けてきた患者様にも安心して通院できる環境を整えています。

友部歯科診療所は患者様がおいしく食事ができるよう、医科歯科連携を密に行い患者様の健康を第一に考えた診療を目指していきます。

HP: <http://www.tomobe-dental.com/>



■所在地：笠間市美原2-8-27

■電話：0296-77-8841

※駐車場・チャイルドスペース有り

■診療受付時間：午前9:00～12:00（月～土）

午後14:00～19:30（月火金）・14:00～18:00（水木土）

■休診日：日曜・祝祭日

地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さまにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後とも宜しくお願いいたします。

各診療科のご紹介



左から玉田先生、アマデアル先生(研修医)、川井先生

形成外科

医長 たま だ 玉田 たか かず 崇和

形成外科 医長 玉田崇和と申します。旧藤代町の出身です。今年10月に旧友部町出身の川井啓太先生が赴任し、茨城県出身の2人で診療しています。

皮膚科の狩野俊幸先生、柴尾加奈先生、斎藤小弓先生と協力しあい、5人で皮膚科形成外科として一つの診療科のように活動しています。

「形成外科ってどんな科ですか？」とのご質問をよく受けます。確かにこういった疾患を専門に扱う診療科であるかわかりにくく、医療者であっても十分な返答をできる人はなかなかいません。

形成外科は主に体の表面を扱う外科、「体表外科」です、とお答えしています。

日本形成外科学会ホームページでは、「形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域です。」と紹介されています。

日本において形成外科学会は発足してまだ60年足らずの若い診療科ですが、世界的にはその歴史は古く、起源は紀元前に遡ります。古代インドにおいて罪人が鼻を削がれる刑罰があり、おでこの皮膚を使って鼻を再建する造鼻術が行われていたようで、これが形成外科手術の起こりと言われています。その後、16世紀のルネッサンス期に花開き、手術器械の開発、様々な術式の考案、顕微鏡手術の開発を経て、現在に至ります。

具体的には皮膚のケガ、熱傷、顔面骨骨折、外表の先天異常、でべそ、良・悪性腫瘍とそれに伴う再建、乳房再建、きずあと・ケロイド、難治性潰瘍、眼瞼下垂、陥入爪、腋臭症など、さまざまな疾患を対象としています。（現在、小児病棟のない当院では小児先天異常の手術は行えておりません。また、美容手術も基本的には行いません。）

当院における形成外科の特色は、皮膚悪性腫瘍手術、人工物を使った乳房再建手術、人工透析のための血管手術が多いことです。それぞれ、皮膚科、乳腺外科、透析センターが当院において充実しているためであり、形成外科は他科との連携で成立する診療科と言えます。

体表に関するお悩みがありましたら、ご相談ください。

―第15回― 「国民皆保険制度を続けるために」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき
病院長 吉川 裕之



国民皆保険（公的医療保険）制度は、すべての国民が何らかの公的医療保険制度に加入し、お互いの医療費を支え合う仕組みです。また、保険料の負担軽減のため公費も投入されています。この制度により国民全員が同じように医療（高度な医療を含む）を受けられ、なおかつ医療機関を自由に選択できるなど、世界からみても非常に優良なこれらの制度のお陰で日本は健康で長寿の国になりました。

平成26年度の日本の国民医療費40.8兆円の財源別負担は、保険料48.7%（被保険者28.3%、事業主20.4%）、公費38.8%（国庫25.8%、地方13.0%）、患者負担11.7%となっています。義務教育就学前（6歳未満）は2割負担。それ以降70歳未満は3割負担、70歳以上75歳未満では1割負担でしたが平成26年度以降は70歳になった方は2割負担、75歳以上は1割負担、70歳以上でも現役並みの所得者は3割負担です。高額療養費制度（※）により医療費をカバーできる仕組みもあります。

しかしここきて、この制度の維持に危機感を覚える人が少なくありません。65歳以上の1人を何人の現役世代で支えているかみてみると、1965年は9.1人で1人を支える胴上げ型、2012年は2.4人で1人を支える騎馬戦型、これが2050年には1.2人で1人を支える肩車型へととなり、公的医療保険や年金などの社会保障負担は年々重くなるばかりです。国民皆保険制度を維持するためには、医療費の削減や、それに加え保険料、自己負担額、公費（税金）のいずれかを増やす必要があるのです。

医療費を削減することはある程度可能です。検診やワクチンなどの予防で疾患を減らし、症状を軽くすることや、効果がはっきりしない医療をな

くすことも重要です。ウイルスが原因の風邪やインフルエンザに無効の抗生物質の処方をやめたり、75歳以上がコレステロール値を下げて死亡リスクが下がるという証拠はないのでこれも省略可能でしょう。また最近話題の分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤などの高額な薬物治療や陽子線・粒子線などの先進医療の医療費の単価が下がれば、これも医療費の削減につながります。終末期医療における延命治療をなくし、在宅医療促進を図ることも医療費削減に有効でしょう。実際、入院治療は減少しており、入院期間も短縮されてきていますが、それでもまだ欧米に比べると倍以上の入院期間があります。今後は低侵襲治療の進歩や外来治療の促進で入院治療は縮小していくでしょう。

保険料の支払いが増額になる可能性も否定できません。保険料を支払う人口を増やすことも期待されますが、現役労働者層を拡大するためには、少子化対策だけでは時間がかかります。定年の延長や撤廃、外国人労働者の雇用促進も検討していくことになるでしょう。

公費を増やすためには増税、特に消費税の増税が進む可能性があります。高齢者を含めて自己負担の割合の増加や、高額療養費制度の見直しもあるかもしれません。

日本の国民医療費の総額は、毎年増え続けており、現在の仕組みのままでは、国民皆保険制度を支えることは困難です。将来も国民皆保険制度を維持していくには、負担の仕組みを超高齢社会にあった制度に変える必要があるとともに、私たち一人ひとりが自覚し、健康への意識を高め、医療費を節約していくことが重要です。

※月ごとの自己負担限度額（被保険者の所得で異なる）を超えた場合には超えた金額が支給される。

糖 尿 病 週 間 イ ベ ン ト

11月14日は、「世界糖尿病デー」です。インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、糖尿病治療に画期的な発見に敬意を表し、この日を糖尿病デーとして顕彰しています。世界糖尿病デーは、現在、世界160カ国から10億人以上が参加する世界でも有数の疾患啓発の日となっており、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。当院でも11月13日～11月16日を糖尿病週間として、外来ホールにて掲示物や冊子等の展示やイベントを開催致しました。指先から簡単に血糖の状態を知ることができる「指先エーワンシー」の実施や体脂肪測定、健康相談など盛りだくさんの内容で行われました。糖尿病について、またご自身やご家族の健康に目を向けていただくよいきっかけとなりました。



第3回 秋の小さな音楽会

9月27日(木)

新宮由理さんと森美佳さんの歌と芦沢真理さんのピアノによる音楽会をレストランホールで開催しました。秋の季節にちなみ、もみじの曲をはじめとした四季のメドレーの女声アンサンブルやドビュッシー作曲 月の光のピアノ演奏をお聞きいただきました。深まりゆく秋の中、心温まる癒しの時間を過ごすことができました。



非常勤職員(看護師)の募集

- ・職 種：看護師
- ・募集人員：10名程度
- ・雇用期間：～平成31年3月31日
契約更新有り(条件有り)
- ・業務内容：外来診療、病棟診療の看護業務、診察の補助、医師の指示による採血や注射点滴等の業務、患者さんの状況把握等。
- ・資 格：看護師免許
- ・賃 金：時給1,216～1,583円
他に賞与有り(院内保育所利用可)
- ・勤務時間：9:00～16:00または8:30～15:30
(原則として、この中で週29時間勤務)
勤務日・時間等は相談して決めます。
29時間以内をご希望の方もご相談ください。
進学や介護などにより、月に数日だけ夜勤希望の方もお受けします。
夜勤の場合の賃金・勤務時間については、別途協議いたします。

多くの女性スタッフが活躍中！
仕事と家庭の両立もサポート。

ご連絡先：事務局総務課 黒澤
☎0296-77-1121(内線2741)

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>